

和光会グループ(医療福祉・岐阜市)

多様な働き方を実現する柔軟な勤務体系とICT活用により、誰もが働きやすい職場づくりを推進

- ・ 1990年代から職員支援に取り組み、時代に合わせて誰もが働きやすい職場づくりを推進
- ・ 350種類のシフトパターンにより、多様な人材がそれぞれの特性を活かして働ける環境を整備
- ・ クラウド上の業務マニュアルを2,000本以上整備し、業務の標準化・効率化と人材育成を両立

病院や介護施設、子ども園など様々な施設の運営を通して、100年にわたり地域の医療・福祉を支えてきた和光会グループ。1990年代にライフワーク支援指針という職員支援の方針を打ち出し、早くから働きやすい職場づくりに取り組んできました。当初は女性が働きやすい職場づくりから始まり、時代のニーズや職員の状況に合わせて取組みを段階的に広げ、現在では性別、年齢、障がいの有無に関わらず、誰もが働きやすい職場づくりを進めています。

誰もが働きやすい職場づくりを推進

平成5年には企業内託児所を、また平成20年には病児・病後児保育園を整備した同グループ。さらに、障がい児を抱える職員が働き続けられるよう、平成20年に児童発達支援や放課後等デイサービスといった障がい児サービスを開始し、現在は事業として運営しています。近年はウェルビーイング推進室を新設し、仕事と育児の両立支援に加えて、職員の健康支援体制も整えています。こうした取組みの結果、出産による離職者はゼロを維持し、育児休業からの復職率は100%となっています。



女性職員が多く活躍する職場

350種類のシフトを用意し、多様な人材の活躍を実現

医療・福祉業界が慢性的な人手不足に直面する中、同グループでは職員一人ひとりの希望にできる限り寄り添えるような勤務体系を整備しており、勤務シフトは、1日2～3時間の超短時間勤務を含め、実に350通りにも及びます。

このような柔軟に働ける勤務体系により、早朝など人手が集まりにくい時間帯には高齢の職員が2時間程度の朝食介助を担い、また、障がいがある職員が施設内の清掃や配膳・下膳を行うなど、体力や時間に制約のある職員も含め、多様な

職員がそれぞれの特性を活かして活躍しています。

但し、障害者雇用においては、障がいの種別によって、本人の自覚以上に長時間労働が大きな負担となる場合があります。このため、同グループでは、まずは短時間勤務からスタートし、その職員に合った業務内容や勤務日数へ段階的に調整を行いながら、必要に応じて研修を実施し、無理のない形でフルタイム勤務への移行を支援しています。現在では障がい者のうち6割以上が、フルタイムに近い形で働けるようになりました。

クラウド上の業務マニュアルにより業務を効率化、人材育成にも効果



スマートフォンで連絡を確認する職員

こうした取組みに併せて、同グループが近年、積極的に進めているのがICTの活用です。

例えば、従来は88の事業所が独自でマニュアルを作成・保管していましたが、令和4年からクラウド上でマニュアルを作成し直し、その数は2,000本以上にものぼります。そして全事業所において、いつでも共通のマニュアルが閲覧できるようになっています。

この取組みにより、業務に関する内部問い合わせが大幅に削減されました。また、マニュアルの一部を動画化したことで、育児休業からの復職時の研修としても活用しやすくなりました。

同グループではインドネシアやミャンマーなどから特定技能実習生を受け入れています。動画マニュアルを整備したことで、言語の壁を越えて視覚的に実技を学べるようになり、海外人材の育成にも効果的なツールとなっています。



リハビリの成果をタブレットで見える化

今後も、多様な人材が活躍できる体制づくりを推進し、これからの100年も引き続き地域の医療・福祉を支え続けていくことを目指しています。

【和光会グループ】 (<https://www.wakokai.or.jp/>)

所在地：岐阜市寺田7丁目95番地

従業員：1,950名（うち正社員1,189名、パート761名）

創 立：大正14年

（令和7年8月末時点）